
私が守るもの

燦

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私が守るもの

【Nコード】

N7910V

【作者名】

燦

【あらすじ】

薄桜鬼の小説、「私が守るもの」です♪

途中からオリジナルキャラも出現します^^

プロローグ（前書き）

この小説の作者、笹々村つららと言います！

えっと…初めてなので可笑しい所が幾つか有りますが・・・；

宜しくお願いします♪

ブローグ

―ブローグ―

私は何を求めて居るのだろうか？

何がたくて此処に居るのだろうか？

私はただ・・・守りたいものが此処に存在するから此処に居るのでは無いのか・・・？

もし私の考えている事が違うのなら一体何の為に此処に居るのだろうか・・・。

誰かを守るため？それとも・・・生まれ育ててくれた人を探すため・・・。

今となつては如何なのかさえも分からなくなってしまうている。

誰か私を探して

そして・・・

助けて・・・。

プロローグ（後書き）

最初からグダグダです；

ですがこれからも宜しく御願います♪
w

第一話・少女（前書き）

つらつですー！

プロローグの続きです♪

どうぞっ。

第一話：少女

それは、風が冷たく感じる冬の夜の事・

? 1「ハッ、ハッ、ハッ…」

? 2「おい、待て！小僧！！」

追い掛けられている少年・いや、少女の名は雪村千鶴。

そして追い掛けているものはただの浪士。

浪士と言っても、弱いものを見下し、何の辱めも無く、堂々と町中を歩いている者達だ。

だがこの浪士達が夜に人を追い掛ける事など、京では珍しいものだとは言えない。

追い掛けられている者がよっぽどの刀を持ち歩いて居なければ、もしくは逆らう事などしなければ

追い掛けられると言う事は無い

とはあまり言えない。

浪士「あの小僧！何処に行きやがった！」

千鶴と言う少女は上手く浪士から逃れた。

だが

何時見付かるか分からない、だから少女の目は恐怖に怯えたものとなってしまうていた。

そして、浪士が少女の近くまでやって来た。

その時――

？3「血イ…血を寄越せ…。」

別の者・・・いや、人とは言えない者の声がした。

少女は見付からない様にして声がする方へと視線を向けた。

その瞬間

ザシュ

と言う鈍い音が少女の耳に木霊した。

第三話・浅葱色（前書き）

第二話の続きです。

第三話：浅葱色

?2「ヒヤハハハハッ!!!」

少女「っ……」

人が殺されるところ、血の香り、刀、この三つが少女にとってはとても怖いものを感じさせた。

人とは思えない者達が少女の存在に気付き、少女に近付いて来た。

少女の目は「恐怖心」そう恐怖心で一杯になっていた。

そして・・・人とは思えない者達は少女に刀を振り下ろそうとした。

少女「きゃあああああ!!」

その時――

ザシュ・・・

少女「……………?？」

少女は鈍い音が耳に木霊したのに痛くないと思い目を開けた。

次に少女の目に飛び込んで来たもの、それは――

浅葱色の羽織・・・血で汚れた刀。

この二種類。

斬ったのは

?3「あーあー相変わらず仕事早いよね。」

と言ってクスクスと笑う男の人と――

?4「俺は任務を果たしたまでだ。」

とても冷静な人だった。

？3「ふーん…けど一君も酷いよね。僕が斬っちゃいたかったなあ…w」

？4「総司、今此处で名前を出すな。」

？3「一君も僕の名前、言ってるんだから良いじゃないww」

クスクスと笑っている方は愚痴りながらもまだ笑っている。

もう一人はクスクスと笑われているが顔色一つ変えない。

少女は恐怖心も有るが驚きでその場から逃げ様とした。

だが―

？5「逃げるなよ？逃げたら、斬る」

少女「あ…。」

『逃げたら斬る』

と言う言葉を聞いて少女は逃げる事を断念し、物置の影から出た。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7910v/>

私が守るもの

2011年8月31日12時33分発行